



車より話

N.23

平成 21 年 11 月 10 日発行

(労働・社会保険ニュース)

阿部年金労務管理研究所

阿部 純二 (社会保険労務士)

〒194-0045 東京都町田市南成瀬 5-25-14

Tel 090-1200-1526 Fax

042-722-1526

E-mail: abenekin@ybb.ne.jp

“ねんきん特別便”の再調査により、遡って一時金を受給

町田市金森の青木 亘さん(81才)は、“ねんきん特別便”を再調査したところ、奥様の履歴に空白期間が見つかり、年金時効特例法が適用された結果、遡って2,165,984円の老齢厚生年金を受給することができました。

青木さんの手記を掲載します。

夫婦の“ねんきん特別便”が来ましたので内容をチェックしたところ、自分の履歴は正しく記載されていたが、妻(80才)の結婚前の履歴に4件の勤務洩れと15年間の空白がありました。

妻に聞いたところ、敗戦直後で勤務期間の記憶も不確かで、脱退一時金を貰ったような気もすると云う曖昧さでした。

ある会合で、社会保険労務士の阿部さんに“ねんきん特別便”を念のため見てもらったところ、「履歴に空白があることは記載漏れの可能性が高いから、町田年金センターに出向き再調査してもらったらどうですか」とアドバイスを受けました。

早速平成20年5月8日、混雑する年金センターで長時間待ちに耐え再調査を依頼したところ、長時間耐えただけのことがありました。

空白期間15年のうち2件の職歴が判明しました。

先ず年金時効の5年分696,384円が1年2ヵ月後の本年7月に振込まれ、次に時効特例法適用分1,469,600円が17ヵ月後の本年9月に振込まれ、合計2,165,984円を受給することができました。妻の年金分ではありますが二人で海外旅行でもしようかと思っております。当然今後は増額改訂された年金額を受給できることとなります。

また見つからない残りの2件は継続調査中です。

以上の私たちの体験がお役に立てばと思い、会合など機会あるごとに口宣しています。

考えてみれば、これは自分の当然の権利であり、気付くことなく自分の年金を受給しないまま亡くなっていく方々のあることを思うと、社会保険庁の事務処理の杜撰さに憤りさえ感じます。

空白期間が見つかって、実際の受給に時間がかかるようです。高齢者が受給しないまま亡くなったり、受給しても有意義な使い方ができない方々は刻一刻と増えています。何とか早く受給できる方策を考えて欲しいと願ってやみません。

因みに、社会保険庁の記載漏れミス等で年金が受けられず、後で「年金時効特例法」により5年時効を撤廃し記録訂正が認められた結果、未支給分全額が給付となった一人当たり平均は57万円、最高2,823万円、最低13万円でした。(日本経済新聞21年4月15日)

【おことわり】

「耳よりな話」にてお知らせする年金等の内容につきましては、平易な文言にて、その骨子を説明することを心掛けております。従いまして、法令条文通りの厳密な解釈や例外規定の適用に拠っては該当しない人もいます。その旨をご理解頂きますよう、更に詳細が必要な方は別途お問い合わせください。

100歳以上・・・4万人、自殺者・・・3万人

敬老の日に100歳以上の長寿者が4万人を突破したことが報じられました。日本の平均寿命は依然として世界一を誇っており、誠に喜ばしいことですが、真の目標は健康寿命が世界一になることです。

他方、自殺者が平成10年から連続11年間3万人を超える事態が続いています。本当に悲しいことです。自殺にはいろいろな事情があると思いますし、また他人には分からない苦しさがあることでしょうか、病気と必死に闘っている人、臓器移植の提供を待っている人、健常でない人達はどんな思いで見ているのでしょうか。

ガンと闘っている人は、健常な人が自殺によって健常な肉体を簡単に棄てていることにどんな思いを抱いているでしょう。眼の不自由な人は、健常な人が自殺によって良く見える眼を簡単に棄てていることにどんな思いを抱いているでしょう。

その時の苦しさや原因は、時間が経ち周囲の環境が変わればまた違ったものになるのではないのでしょうか。

自殺防止の意味を込め、少し気分の悪い話：

電車が急停車。そのまま動かない。やがて「人身事故」との車内放送。

少し待つと電車が動き出す・・・これは即死の場合

飛び散った肉片はまだ湯気が出ている。駅員は仏様に失礼にならないよう遺体処理する。

悲惨なのは死に損なった場合

重傷の場合、駅員は救急車手配、応急処置などで時間がかかる。その間電車は停まったまま。

その後の振替輸送代、切符の払い戻し、修理代の費用がかかる。新幹線となると当然高額になる。

これらの費用は遺族に請求される。公表されていないが、訴訟はキッチリ行われているそうです。



第一生命が毎年「サラリ - マン川柳コンクール」を発表しています。

傑作をご披露します。

(本件は第一生命様から転載の承認を得ております)

窓際で 居られた頃が 華だった

迷仙

切れる人 今と昔で 意味違い

巴人

ついてこい 言った亭主が ついてくる

マダムヤン

課長さん 家に帰れば 家長補佐

達磨大使

第十二回第一生命サラリーマン川柳コンクールより